

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

【ドル/円 週足】



これは、年初からトランプ大統領が米国の貿易赤字に懸念を表明し、赤字の多くを占める中国や日本に対し批判を強め、ドル高をけん制する発言をしたことが背景にあります。

トランプ大統領は、彼の支持者の期待にこたえなければならず、そのためには米製造業の雇用を増やす必要があります。米製造業の雇用を増加させるためには、輸出の拡大が必要であり、それにはドル安が有効であるということです。

しかし、トランプ大統領が行おうとしている経済政策は、減税、規制緩和、インフラ投資の拡充という財政政策であり、これは米国の経済成長をもたらすとともに、FRBの利上げ継続を正当化することとなりますが、同時にドル高をもたらすものです。

過激な発言を繰り返す大統領がこの矛盾にどう取り組むのかという点に関し、市場の不透明感が高まり、疑心暗鬼が外国為替市場においてポジション調整を引き起こしていたといえますが、日米首脳会談の結果、日米のより強固な協調関係が確認されたことにより、政治的な圧力が加わる可能性が後退したことは重要といえます。

米国の経済政策や金融政策の行方が焦点となる相場が今後も続くものと思われませんが、トランプ大

ドル/円相場のトレード戦略

統領が市場の期待に応えた政策実施を行えるのかどうかに注目が集まるでしょう。

■ 短期展望

先週は、週初こそ 113 円台後半まで上昇する局面があったものの、週後半にかけてはトランプ政権の景気刺激策に不透明感が強まったことや、米財務長官の米低金利が長期間続くとの見通しが報じられたことでドルは軟化し、112 円台を割り込む動きとなりました。

今週もドルの上値の重い流れが続く可能性が高く 114~115 円水準は強い上値抵抗となりそうです。ただし、目先ドルを売り込む材料もなく、年初来の安値 111 円半ばを維持することが出来れば、先週同様の 113 円台を中心とした方向感のない相場が続くことが予想されます。

注目は、トランプ大統領就任後初の両院議会演説で税制改革やインフラ投資、規制緩和など、踏み込んだ景気拡大策への言及があるかどうかです。

マーケットの動きを見ると、株式市場は期待を大きく織り込んでいるものの、外国為替市場はやや冷めたムードが強まっています。このことは、株式上においては下方向、為替市場においてはドル上昇方向にサプライズリスクがあることを示しており、内容によってはドルの急騰の可能性があるかもしれません。